

第3章

金剛地区の目指す将来像

(1) まちの将来の目標像

○ 一人ひとりが^{きらめ}煌き続けられるまち

誰もがいきいきと学び、遊び、働き、また地域活動等に取り組むなど、一人ひとりが煌き、自らの夢や想いの実現に取り組むことができるまちを目指します。



(資料：NPOふらっとスペース金剛ホームページ)

○ 閑静な^{おもむき}趣を育み続けるまち

まち開きから約半世紀を経て成熟した閑静な趣を引き継いで、まちへの愛着と誇りを育てるとともに、新しい風を受けて次世代に向けて魅力を育み続けるまちを目指します。



(2) 実現を目指す「まち」と「暮らし」の姿

まちの将来の目標像として、具体的には次のように、「まち」と「暮らし」の姿を思い描きます。

「地域力」で支え合うまち

- 子育て・高齢者世帯、障がい者等、支えを必要とするさまざまな立場の人が暮らしやすいよう、金剛地区にかかわる全ての人等が連携し、「地域力」を最大限に発揮したサービスや支え合いを実現します。
- 金剛地区にかかわる全ての人等が連携することで、個々の課題を総合的・包括的に解決し、暮らしの安心感を生み出します。これらの積み重ねにより、地区の実情にあった持続的な相互扶助の仕組みを定着させます。

誰もが「居場所」を持てるまち

- 地区内で見守られ、支え合える暮らし、生きがい・やりがいを持てる仕事や活動、便利で豊かに暮らせるサービスや施設、楽しく時を過ごせるお気に入りの場所等、子どもから高齢者まで、一人ひとりの欲しかった「居場所」を実現します。

多様な人々が暮らし集い「交流」するまち

- 新たに移り住む人も含め、多様な人々が住まうこと、あるいは訪れることにより、世代や立場を超えた交流を実現します。
- 多様な交流の機会は、新たな「煌き」を生み出すきっかけになり、一人ひとりの生きがい、さらにはまちの活力を増進します。

「愛着と誇り」を育てるまち

- 一人ひとりが自分のできる活動に参加するなど、まちづくりに何らかの「役割」を持ち、みんなでまちを育てることで、まちへの愛着、居心地の良さ、安心して住み続けられる地域力を実現します。
- まちの顔となる通りや広場、来訪する人を惹き付ける施設や閑静なまちなみ等、金剛地区ならではの趣を醸成し、住民のまちに対する誇りを育みます。